

第7回「女性研究者のリーダーシップ」研究会のお誘い

この研究会は、愛知大学研究助成金による研究プロジェクト「女性研究者のリーダーシップ研究」の活動の一環として行われるものです。公開研究会ですので、研究会への参加は大いに歓迎いたします。興味のある方はどうぞ遠慮なくお越し下さい。

テーマ：

医療者と統計学：ナインゲール統計学者の顔をめくって

と き：2007年5月19日(土) 午後1:30～午後4:30

ところ：ルイ・パストゥール医学研究センター

3階セミナー室

講演

①

多尾清子（関西医科大非常勤講師）

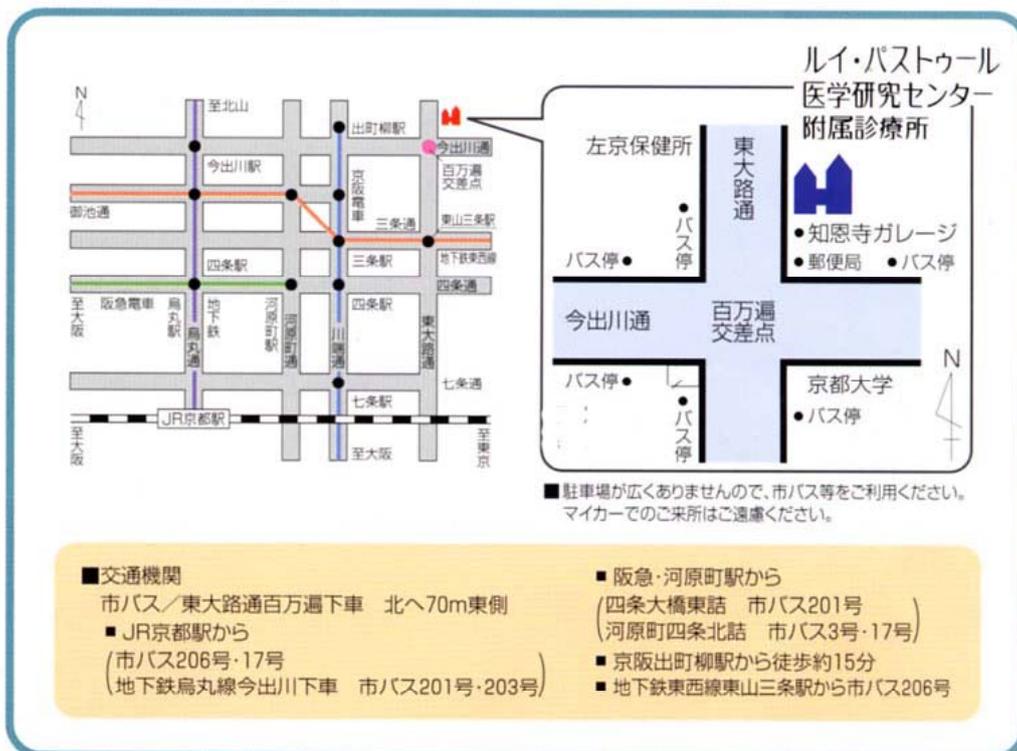
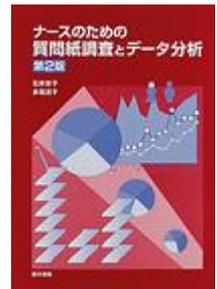
タイトル 「ナインゲールと統計学」

②

八木克巳（京都府立医科大学名誉教授

ルイ・パストゥール医学研究センター主任研究員）

タイトル 「数学・統計学を学んで」



概要とご挨拶

多尾清子先生は、大学卒業後高校の数学の先生をされ、結婚して家庭にはいり、大阪の高槻市で、塾で教えながら子育てをされました。それが終わった 1983 年から大阪大学大学院基礎工学科研究科数理統計学研究室で研究をされました。

子育てを終えて再び学問の道を歩み始めた多尾さんは、シーアコルポーンが 50 歳にして大学院に入り、環境ホルモンの調査をまとめた生き方と重ね合わされます。多尾さんは統計学の講義を看護学校やいろいろな大学で教えてこられました。「統計のいい教科書もなく、自分で医療従事者に適した統計のテキストを作りながら、授業をしてきました」といわれましたが、その気持ちはよく分かります。

日本には、事実に基づきデータの裏づけを持って政策を立て、チェックするという気風がありません。最近経営学では PDCA (プラン・ドウ・チェック・アクション) というシナリオが定着したというものの、今ある統計テキストは難しいものが多くて、学生に理解されないのです。坂東も、愛知大学の同志を集め、「体で会得する統計」の文系用のテキストを完成させた経験があるので、多尾さんのご苦労がよく分かります。

活きた統計の使い方を教えたい、ナイチンゲールの研究は、その思いと重なるのではないのでしょうか。彼女はイギリスでナイチンゲールの統計学の資料や論文・ノートを直接調べられたということです。単なる白衣の天使ナイチンゲールとは異なる、もっとたくましいナイチンゲール像を見いだしたと言われました。本当に一人で調査を重ねてこられたことに、心から拍手を送りたい気持ちです。

八木克己先生は、京都府立医大で、一般教育で数学を担当されていました。医療分野での統計学の重要性を感じ、50 歳にして統計を勉強したといわれています。研究者として周りの人たちとの交流を大切にし、多くの医療関係者の論文にアドバイスを与え、共同研究を進められたという生き方は、大変興味があります。

ご自分の専門を軸に、新しい分野を手がけ、開拓される姿勢には学ぶところが大きいと思います。女性研究者も自らこうありたいと思います。

お二人の講演をきいて、いろいろと議論できる機会をもてるのはとても幸いです。

今回は、宇野さんの職場、ルイ・パストゥール医学研究センターで行います。
どうぞお出かけください。

なお、4 月から、企画について、宇野賀津子さん・前田佐和子さんに加わっていただき、継続的な企画につなげていけるようにと、願っています。ブログも近いうちに立ち上げるつもりです。そこで 21 世紀を見通す議論が掘り下げてできればと願っています。どうか皆様のコメントやご意見など、又ご批判もお寄せ下さい。(文責 坂東昌子、監修? 宇野賀津子さん)

愛知大学共同研究助成金「女性研究者のリーダーシップ」
主催ルイ・パストゥール医学研究センター 共催
女性研究者の会：京都 協賛